

予期せぬ出来事、予測できない事態が頻繁に発生する現代は、今後の行く先の予測が難しい時代と言えるでしょう。こうした時代と向き合うには、「今、ここ」に意識を向け、真剣に生き抜くことより他はありません。

「今、ここ」とは、自分が置かれている環境がベストと受けとめ、目の前のことに懸命に取り組むことです。今、置かれている状況を冷静に把握して、少しでもより良くするために、自分にできることは何なのかを真剣に考えていくことが大切です。

そうすると、未来に対する不安が軽減され、置かれている状況が良くなってくると、どんなに苦しい過去があったとしても「あの時の経験があったから今の自分が存在する」と肯定することができるのです。逆に、今を疎かにして状況を悪化させると、過去の良き行ないさえも否定し、未来が不安なものになってしまうのです。倫理研究所創設者の丸山敏雄は、次のように述べています。

「今日はまたとめぐって来ない。昨日は過ぎ去った今日であり、明日は近づく今日である。今日の外に人生はない。人の一生は、今日の連続である。(中略)一日は今の一秒の集積である」

(『万人幸福の葉』)

元プロ野球選手のA氏は、苦しいことや辛いことがあると「ここから」と気持ちを切り替えることがプロとして活躍できた要因だと振り返ります。

A氏は高校時代からプロ野球チームのスカウトに注目される存在で、大学入学後も即レギュラーとして活躍をしました。



何度もやってくる苦難を 前向きな気概で吹き飛ばそう

しかし、入学して数カ月後、試合中に相手選手と接触し、左膝の十字靭帯と後方の靭帯が同時に断裂するという大怪我にまみれました。その影響で大学時代は、ほぼリハビリに費やすことになったのです。三年生の頃から膝の状態も少しずつ回復し、練習に参加しますが、自分の思い描いたプレーができず、涙する日が続きました。

そんな辛い日々の中でも、その都度「ここから」と前向きさを取り戻し、練習を継続しました。その結果、社会人野球の選手として就職を決めることができたのです。社会人チームでは、レギュラーとして結果を出し続け、再びプロへの道が見え始めた三年目のことです。今度は練習中に足首の靭帯を断裂してしまったのです。(また怪我が...)と病院のベッドの上で涙します。

幸いにも六カ月で練習できるまでに回復し、「ここからもう一度」と身体づくりに取り組み、練習を再開しました。しかし、復帰後、試合で結果を出せず退社することになったのです。それでも、「ここから」という気持ちは消えず、草野球チームに所属し、数年後にプロ野球チームの入団テストを受け見事合格を果たしたのです。

後悔することは誰しもあるでしょう。しかし、過去を振り返るばかりでは、前進はあり得ません。A氏のように、何度でも「ここから」と気持ちを切り替えて、今を精一杯生かすことが大切です。どんな逆境も前向きな心で再スタートを切り、自己の未来を切り開いていきましょう。